

### 第37回 『畑の草取りと収穫、大豆の脱穀』

と き 2012年12月8日(土) 9:30 - 15:30

ところ 尾根の畑、作業小屋下のハウス

天 気 快晴、暖かくおだやか

参加者 石田、磯、久保、高橋、藤田、藤平佐知子・夕夏 計7名(子ども1人含む)

#### 【午前】

- ・ 9時半集合、今日は少ない。松本ご夫妻が挨拶に来られた。家庭の事情で継続できないとのこと。だが、可能な時は顔を見せてくださるようお願いした。
- ・ 雑木林には信じられない光景が！斜面一面に100頭以上とも思えるフユシャク蛾のオスが、まるでさざ波のように草の上をちらちらと飛び交っていた。
- ・ 畑の様子を見に尾根へ。石田リーダーのもと、年内でいったん整理することを考えて、収穫の終わった部分の表面の草を削り、その後、ひどかったカヤツリグサの根を掘って取り除くという無駄な努力を時間いっぱいまで行なった。ゆっくりと土に親しみ楽しかった。
- ・ 明るい水色の空に時折枯葉の吹雪が舞い、見とれるような冬晴れの景色の中、昼寝をしている幸せな人がいた。
- ・ 正午前15分ほどで、カブと小松菜の大きくなったものを少し収穫した。
- ・ 使った用具：スコップ3本、ホー1本、カマ5本

#### 【お昼】

- ・ 12時～1時：雑木林広場でお昼。
- ・ 22日を餅つき予定としたが、久保さんも出張、松本さんも不在で参加者も少ないためどうしようか？という話になった。

#### 【午後】

- ・ 1時からテツさん小屋の下のハウスにて、大豆の脱穀を行なった。外は風が出てきたが温室の中は春の暖かさだ。
- ・ まず、縦長のプラケースの中で豆の枝をガシャガシャぶつけて豆を落とす。
- ・ その枝を踏みつけて、まだ殻にくっついてる豆を外す。
- ・ 枝を捨てて、下に残った豆や葉やごみを箕に入れ、強風の中で振り分けて豆を残す。これがすごい。頭から全身ごみを被ってしまう。
- ・ 途中まで済んでいた黒大豆は順調に収穫したが、白大豆は健康な実がほとんど残っていない。箕で篩い分けるより指で拾った方が早い、ということになったが、結局白大豆の収穫は500ccペットボトルにも満たないほどの惨憺たる結果だった。
- ・ テツさんと打ち合わせの結果、3月に季節のイベントを行なって餅つきをすることになり、1日のイベントの参加者にもアンケートと共にお知らせすることになった。
- ・ 次回の作業は2012年12月15日(土)。

(記録：藤田 廣子)